

冬に向けての予防対策講演 自身の健康を考える機会に

11月9日、町中央コミュニティセンターで第2回健康まつりが行われました。2回目となる今回は「冬は感染症の季節！あなたの予防対策は大丈夫？」をテーマに開催。当日は、川久保病院の医師や歯科衛生士による医療講演と医療指導、また管理栄養士による体が温まるレシピの紹介が行われました。講演後は、血管年齢測定や体組成形測定などの健康チェックを実施。訪れた人たちは、冬に向けての予防対策の講演や健康チェックなどを通して、自身の健康について考えていました。



寸劇や講演で知識深まる 認知症患者との関わり方学ぶ

11月16日、町中央公民館で山田町認知症セミナーが行われました。これは、認知症患者数が増加している現状を踏まえ、その症状などを学ぶ機会として毎年行われているものです。はじめに、山田交番の藤田巡査部長が、歌を交えて特殊詐欺や交通事故防止を啓発。認知症キャラバンメイトは、寸劇で認知症の症状などを伝えました。また、社会福祉法人典人会の^{うちで}内出専務理事は、認知症の方の世界について、医学的知識だけではなく、その人自身の人間性を理解し尊重することの重要性を説きました。

ワイヤーとビー玉で広がる世界 マールアートに挑戦

11月10日、船越防災センターでマールアート教室が行われました。マールアートとは、ビー玉をワイヤーで固定し、様々な作品を作ることができるというもの、盛岡市発祥の芸術活動です。この日は、釜石市で教室を営むさとうようこさんを講師に招き、5人が参加してマールアートに挑戦しました。作成したのはクリスマスツリーをかたどった置物。初めは慣れない作業に戸惑っていた参加者も、1時間ほどで素敵な作品を作り上げ、マールアートの楽しさを実感していました。



国を越え、芸能文化で交流 轟木小で三陸国際芸術祭

10月29日、轟木小学校で「パロンダンス体験・演舞交流会」が行われました。これは、三陸沿岸地域を舞台に、国内外の郷土芸能を介して交流する『三陸国際芸術祭』の一環として行われたものです。この日は、轟木小学校の児童26人と白石神楽保存会、そしてインドネシアのパロンダンスグループが参加。児童らによる鶏舞と、バリ島の郷土芸能であるパロンダンスがそれぞれ披露されたあとにはそれぞれの郷土芸能を体験。お互いに郷土芸能を教え合い、芸能文化を通して笑顔で交流を図りました。



町のわだい

今月の題字 佐々木 まりか 茉莉花さん（織笠小6年）



600点以上の作品展示 多くの芸術「和」で彩る

10月20日から11月17日にわたって令和元年度山田町民芸術祭が開催されました。11月2日、3日には、アートフェスティバルが行われ、2日間にわたり、延べ1300人が来場。絵画や習字、生け花など600点以上の作品が展示され、訪れた人たちは一つ一つ作品を鑑賞し、芸術を感じていました。また、10月20日には民謡と踊りの集い、11月17日には音楽の集いが行なわれ、出演者たちは日ごろ練習してきた歌や踊り、演奏を披露。今年の芸術祭のテーマ「和」にふさわしく、舞踊や音楽、各種展示作品など、多くの芸術が和に彩られました。



日ごろの練習の成果を発揮 子どもたちの歌声響き渡る

11月12日、町中央公民館において、第50回山田町小・中学校音楽発表会が行なわれました。同発表会には、町内の小学校9校、中学校2校が参加。はじめに、山田中学校吹奏楽部が「パプリカ」と「ひよっこりひょうたん島」を演奏し会場を盛り上げました。各校の発表ではそれぞれが工夫を凝らし、拍手を入れたり合奏をしたりと日ごろの練習の成果を発揮。発表後は、宮古教育事務所の嵯峨文裕指導主事が感想と良かった点、改善点などをきめ細やかに評価。発表を終えた子どもたちは、達成感に満ちた表情にあふれていました。

